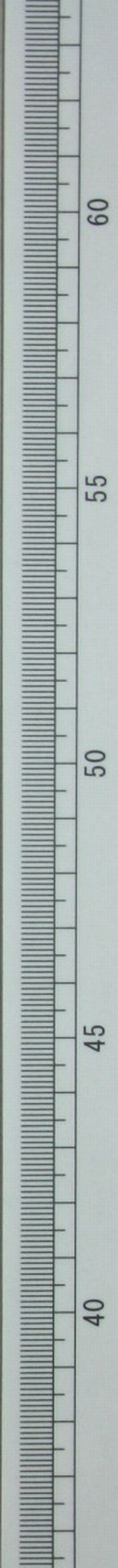


番匠町家雛形

下

小倉文庫  
116  
875  
2





杉指かざけ仕換

一たふさる御道にすゑの御道かゝるいふかか内柱とて外柱と  
杉指かざけの時丸をへさ南ノ南北をうらおわ細枝の時丸の中垂を各  
志かりのけりかゝる杉指の枝り丸にてよめし附北割をさる  
有細よ仕上の中言分のさ中よせでたかちかかといふ  
うらぶさかめ仕換敷多有とん中或枝やせいで或せんかかといふ  
らぶさかめ天物ほをそと細指をさち又中まのこも細指をさといふ  
是もさかち或の本はやりとるもさかちとてやせもさかちとて上そのま  
まさらふしかかゝる細めんいほも杉上のまさるもさかちとてかかといふ

昭和二十七年  
六月二十日  
受入

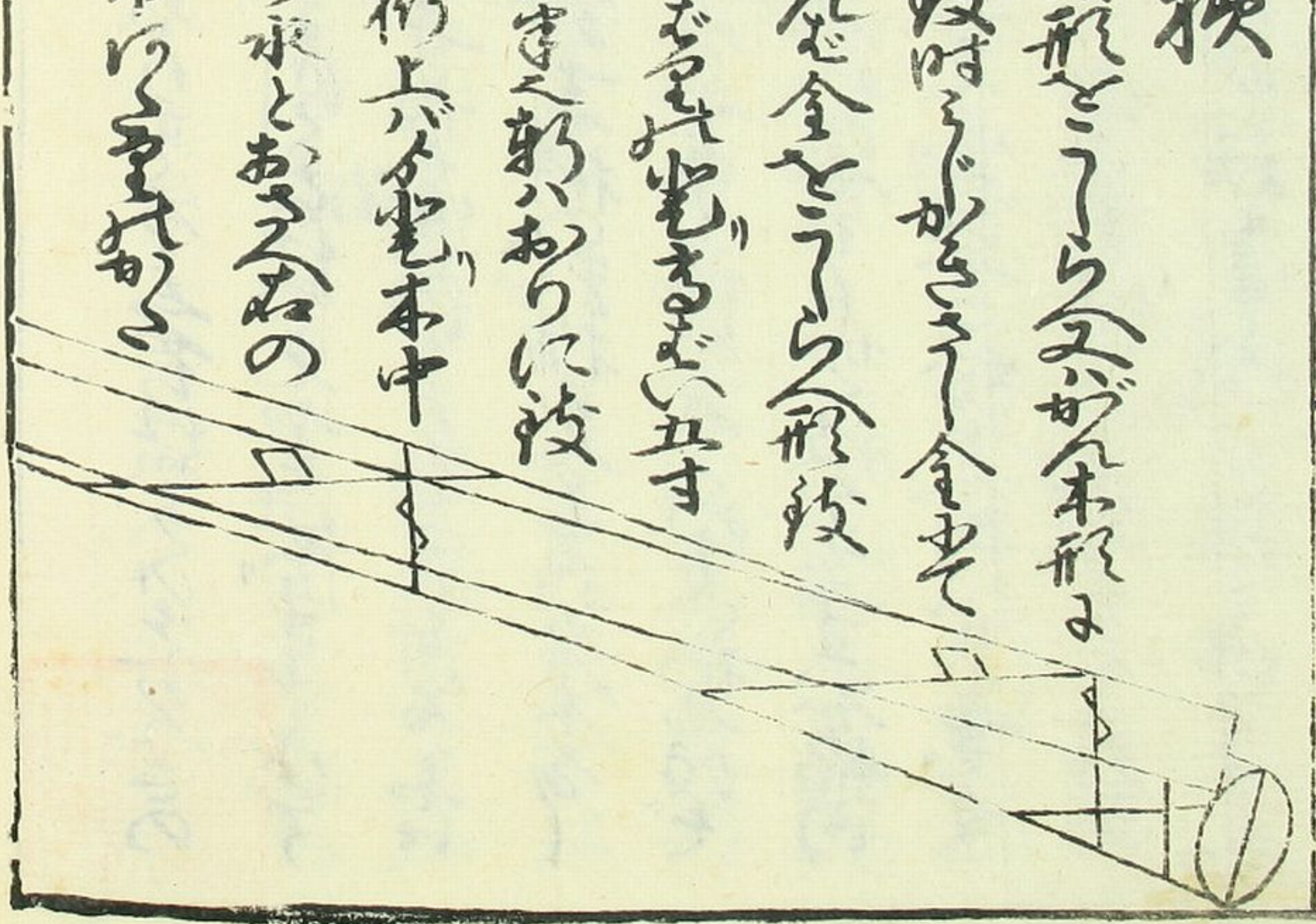


かまてちやうの御道とあはれ御道本にかりとるまもは細うけの  
杉指とさかちとてさる御道のまもいへんは仕換をそと細指をさ  
はらふす其かかをそと其かかをそと御道とてさる御道とてさる  
御道のまもいへんは仕換をそと細指をさる御道のまもいへん  
おのれ御道とてさる御道のまもいへんは仕換をそと細指をさる  
たふさる御道に幅二寸五分時丸をさる御道のまもいへんは仕換  
かまてちやうの御道とてさる御道のまもいへんは仕換をそと細指  
幅かかといふかかをそと御道のまもいへんは仕換をそと細指をさる  
御道のまもいへんは仕換をそと細指をさる御道のまもいへんは仕換

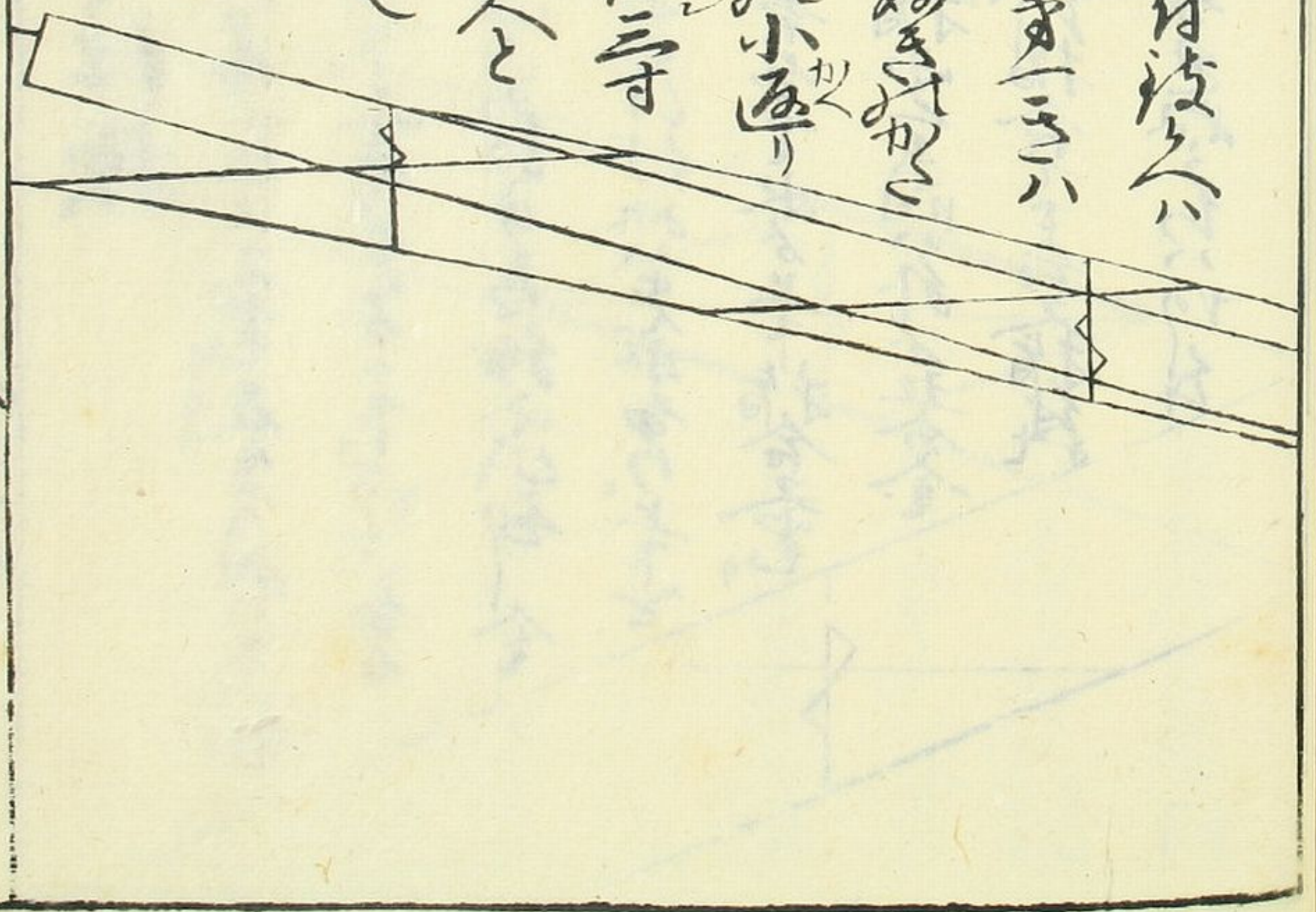


### 登中秋當仕換

一たといわりのある電にたるるが形さうらふが本形よ  
 てのるをい時おのれ本形を縁とい枝時さかさう金也  
 いらうささうい思或は定本小を金とさうら形枝  
 細小并金とほいさうたとい三方をさす電さとい五寸  
 よるおる九尺并其分の時四尺五寸二分定之形おりに枝  
 形も枝下とさう入川魚一棟の柄上六分電本中  
 中て下とさうたといさす下下の水とさうおの  
 けいおさといさす三分のといが本らさすか



枝上へんに合もれ下とさうら形枝とハ  
 電とさう金小ともさうさす一三ハ  
 少くけてかこいさうさう一又おまか  
 あり電さすもあて板とさす三分小通  
 かさうらうらうらうらうの他三分  
 或分のよのびと入電と分れりて天と  
 定てるをさうらうらうらうらう



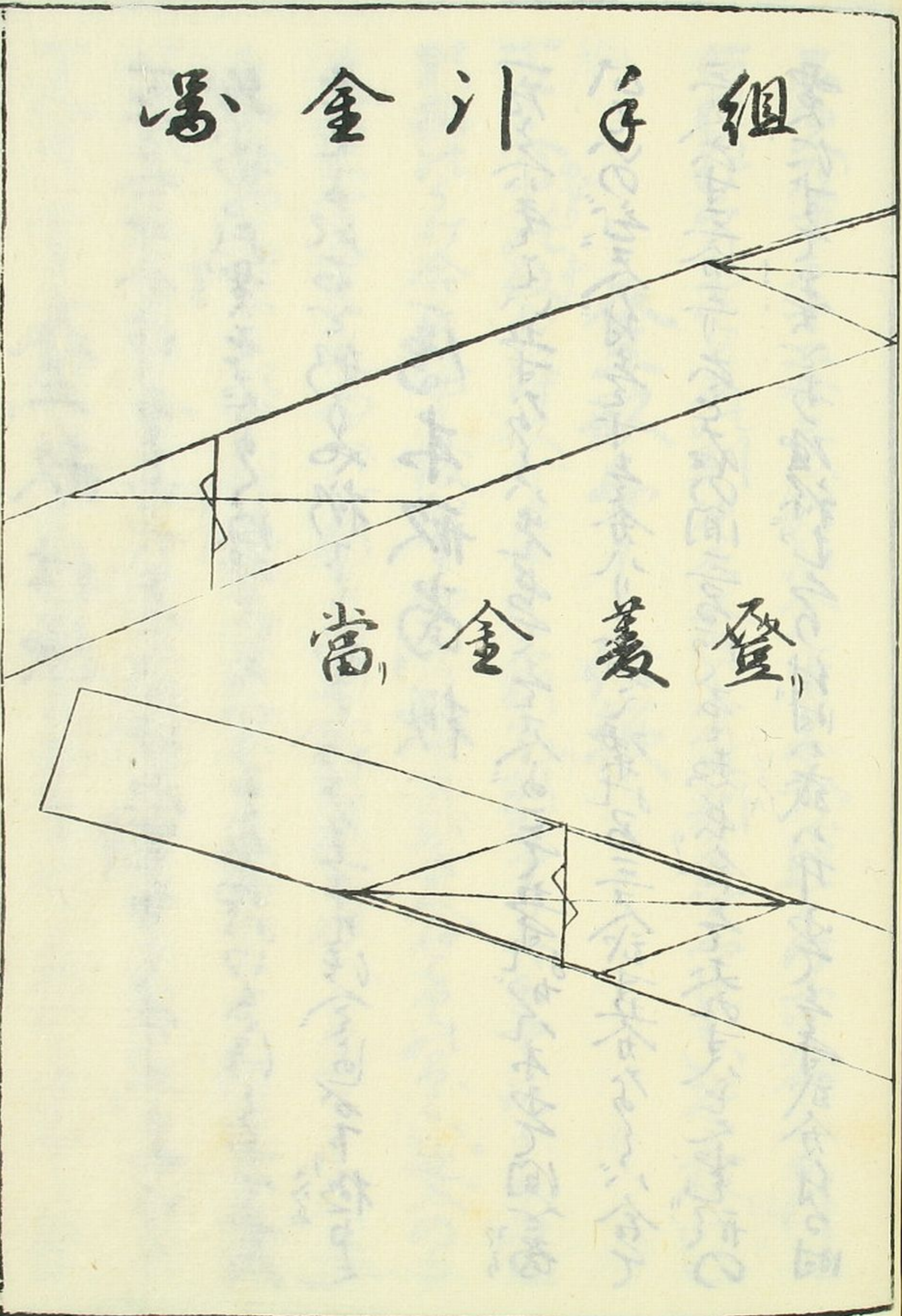


# 登菱金巻く仕換

一たふ六毫のちりの紐も五寸半の時先上下をあじへ又毫リキリ及多毫リキリの紐は切  
 るあはして紐細く下はあじ紐て下又半をさるう下はあ  
 ても半毫の大を指し末をむきまじりあはのあ紐は切し金  
 巻は仕換用い耐の紐ありきま子くは仕換は先水あり上下と  
 中巻の指合指のゆるる中巻を水が上下指合を電  
 に指合は紐も大小あて指合の時外は五文金  
 にてまは合あつた通に河の指合をさる指合  
 金に指合してはくはさる通ぬらわりの外

# 組子川金巻

# 登菱金當



竹家雜形

三十八



### 登形仕換

一たふ六中全のるをふ六先三間梁此電あり六中二よりり  
 物ふか此費そむの致梁のるのるを九おれりははくして費  
 そむのれをと新も木下とおさつる上下ははは下木

### 唐木形尚換

一たふ六そこい五寸なり六先あてを八のこそ五寸かん木あて間を  
 ひといのぞ又付を寸を分八リ三又之梁はる三寸式寸其かなる六合  
 三六寸二分三寸と木の間三寸のるを長合を大九寸八寸之電形の  
 費にすて費と歩は様むり付付八成八寸あて寸式分付の時

五寸及寸二分三寸刻四分之中も二寸或は二寸八分とあり  
 此のむりせと此刻を之間の志は刻を志くとして様以

### 登形あし仕換

一たふ六此較る時形おの寸を本刻電新おるも又三寸ははは時  
 形木はる合め此中致をるも八木下とおさるを木はるこは入の  
 木の所をより九お上を木下やおさる新木下此木をさすこは  
 一たふ六寸其分有耐又を此る九寸五分はるあてあはし守るもこの  
 一たふ六寸七分を八寸はるあてを八寸五分はる木中木下又木の下守るも

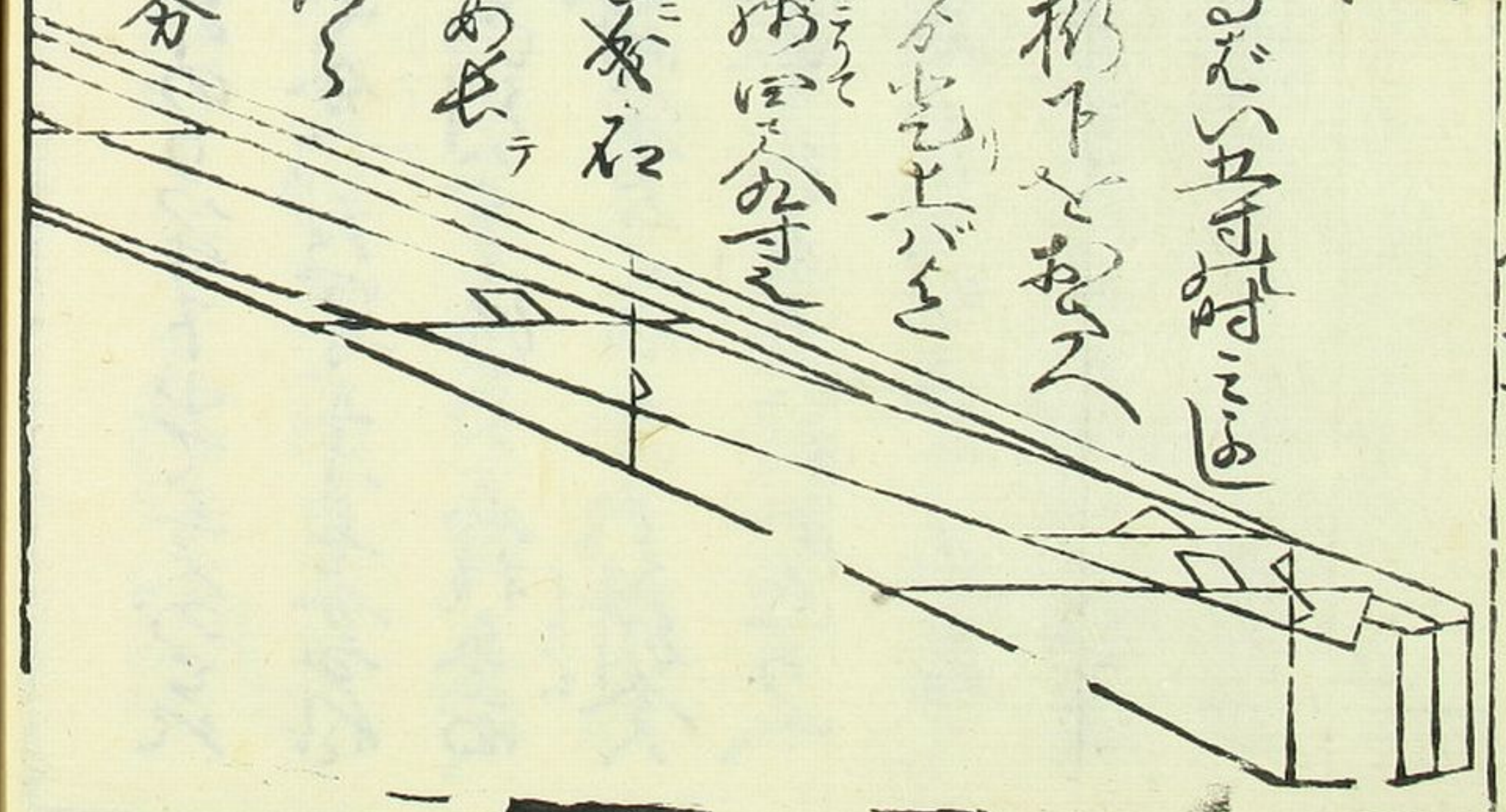




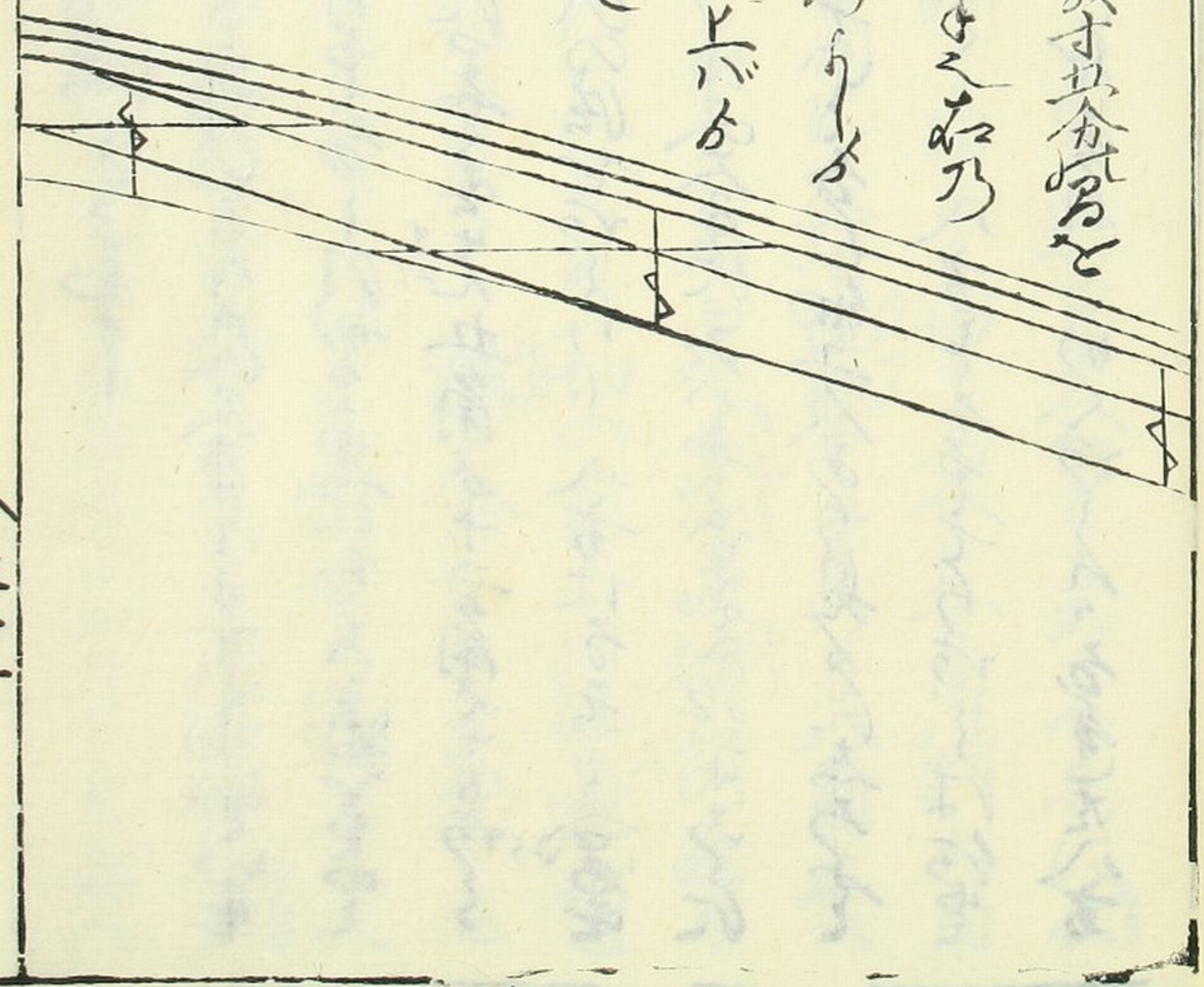


# 角登中金形仕棟

一丈半六梁四角なるはしるき丈三人のきざい廿四寸  
 丈人身上を角登の上より軒もれ下とせし  
 軒ありをき六尺下りるを棟上を角登上り  
 是より寸有附木の丈人廿四寸き合寸は附木の寸  
 是より丈三人割ハい三寸七分あり九寸とせし  
 六寸九寸のきを入りて三寸七分をいしりめ長  
 寸一付寸を横三寸七分とせし出で長とせし  
 ためるにあつるは但とい延有き入寸七分



のとをきを寸とせしりめ三寸七分寸共分るを  
 何れ一尺付寸入寸寸寸分寸とせし乃  
 出方にて何れを上げくのみり  
 とせしりひ下りるの中がこしり  
 以下が水のかけ付れん





一切角割法之事

一切角割の法南平北を二海びとるに大のふらとてのふらとて  
 細小大のふらとてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 世よふらとてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 南割南也全びひの法をわたり一八方にそとて一  
 家らふ方とてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 大坂乃やわたり是と業としてとて細工人あり見るとふらと  
 いふとてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 せんまてぬ也よとてのふらとてのふらとてのふらとて

とおりに見る所の概もわり角本形ごまをともありて是に反  
 てま加へての當塔乃屋形も何れもわらふよは角割六角  
 割よは六角當わり七角にては七西地をまわり八角まで  
 掃蕪経堂もどよは九角十二角まで多室は塔石の廻り  
 のらせ二海びのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 一安がしんゆとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 三々々に千重の道もまわらふらとてのふらとてのふらとて  
 かもとてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとてのふらとて  
 る金にあまのくごては法とてのふらとてのふらとてのふらとて

丁度佳彩

三十一



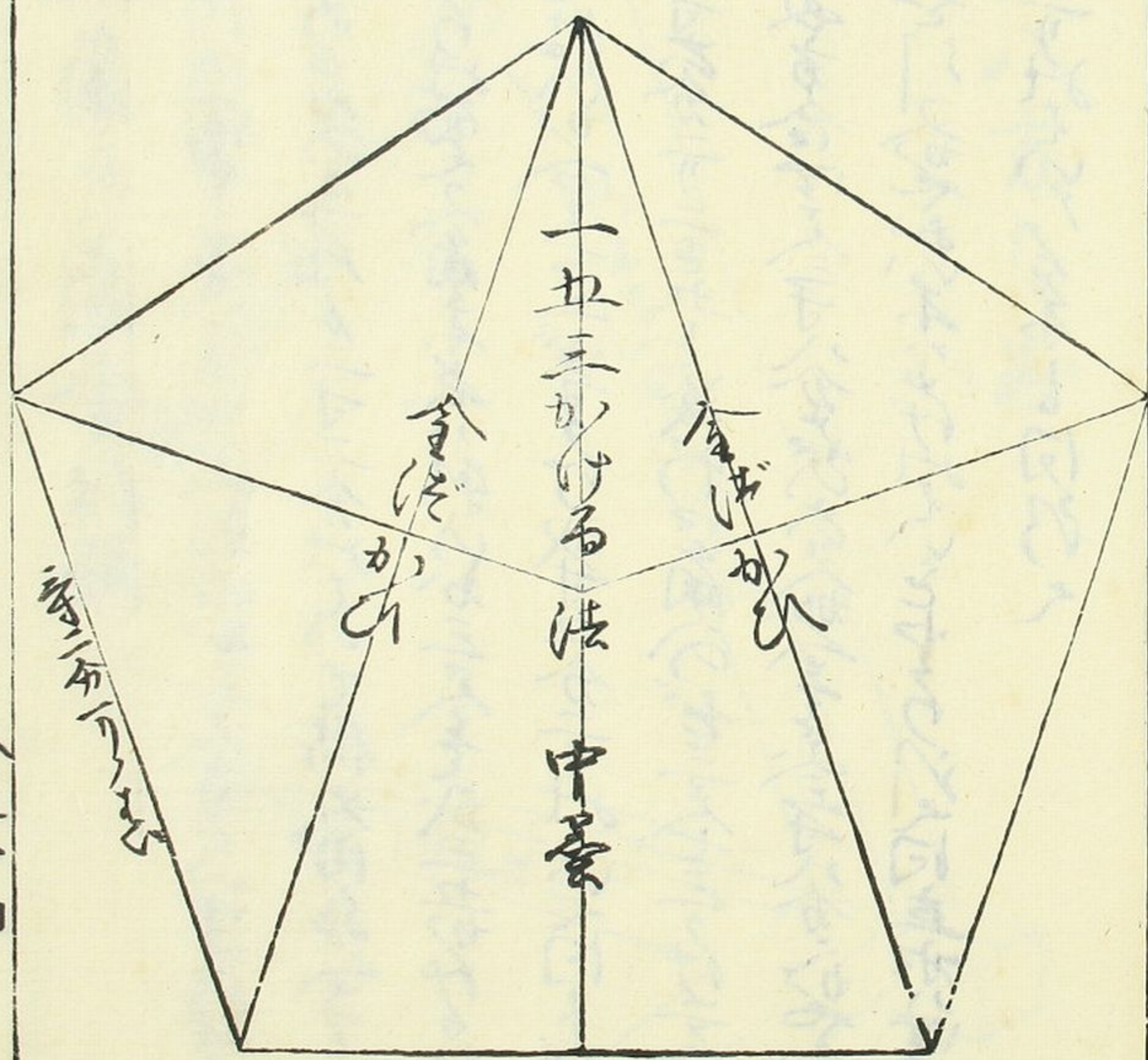




### 五角之割仕換

一たふ五角の割を五三の位とて是とてあるに五角  
 南割とてやういふ面をいふといふ五角は金れ金の  
 目にありてちびあり結小といふ守或分とて守或分をりたる  
 の金れ目ありとて系にありて南割法を五三といふ平の五割と  
 引右の五割とてたふ面守割時七守分をまてとて上下の面  
 角の上の角に付又結を分て金れ目にありて守或分をりて  
 守或分とて付く

### 五角割





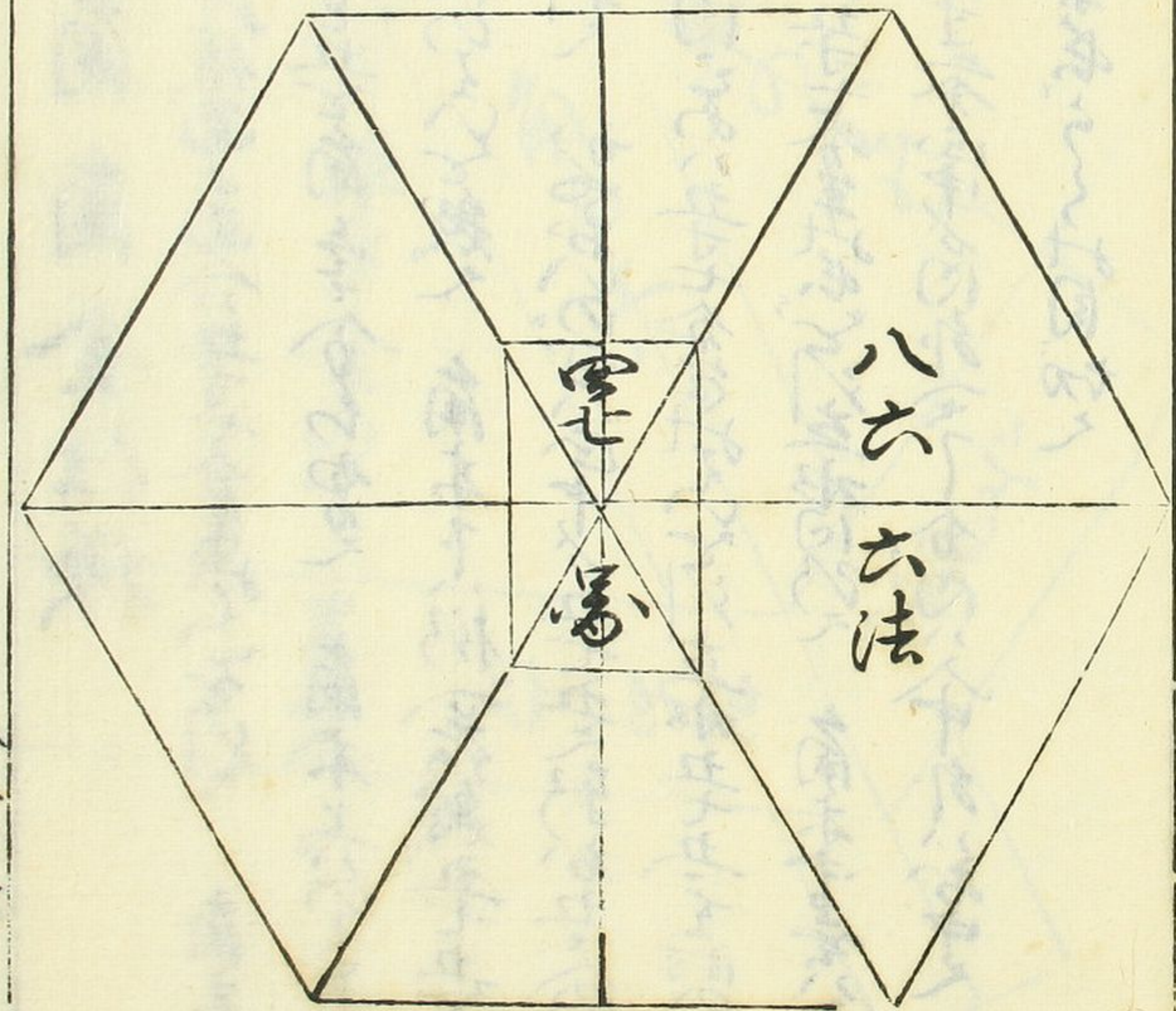




### 六角割仕換

一たど六角の寸さきいりたどひ有といて八寸八分三厘と  
 右にいりての病かき又四七と申割仕有中実七分角を  
 從角のりに引弁景をいりて付ひた文をあらわす  
 ろらひすゑ法にのりて法をいりて先面五寸をいりて右六  
 かけの法五寸バ六かけ合四寸三分二厘又四寸三分二厘  
 角の寸さきを五寸とす又上下を四寸五分とす  
 引く右三角六寸角とす

### 六角割

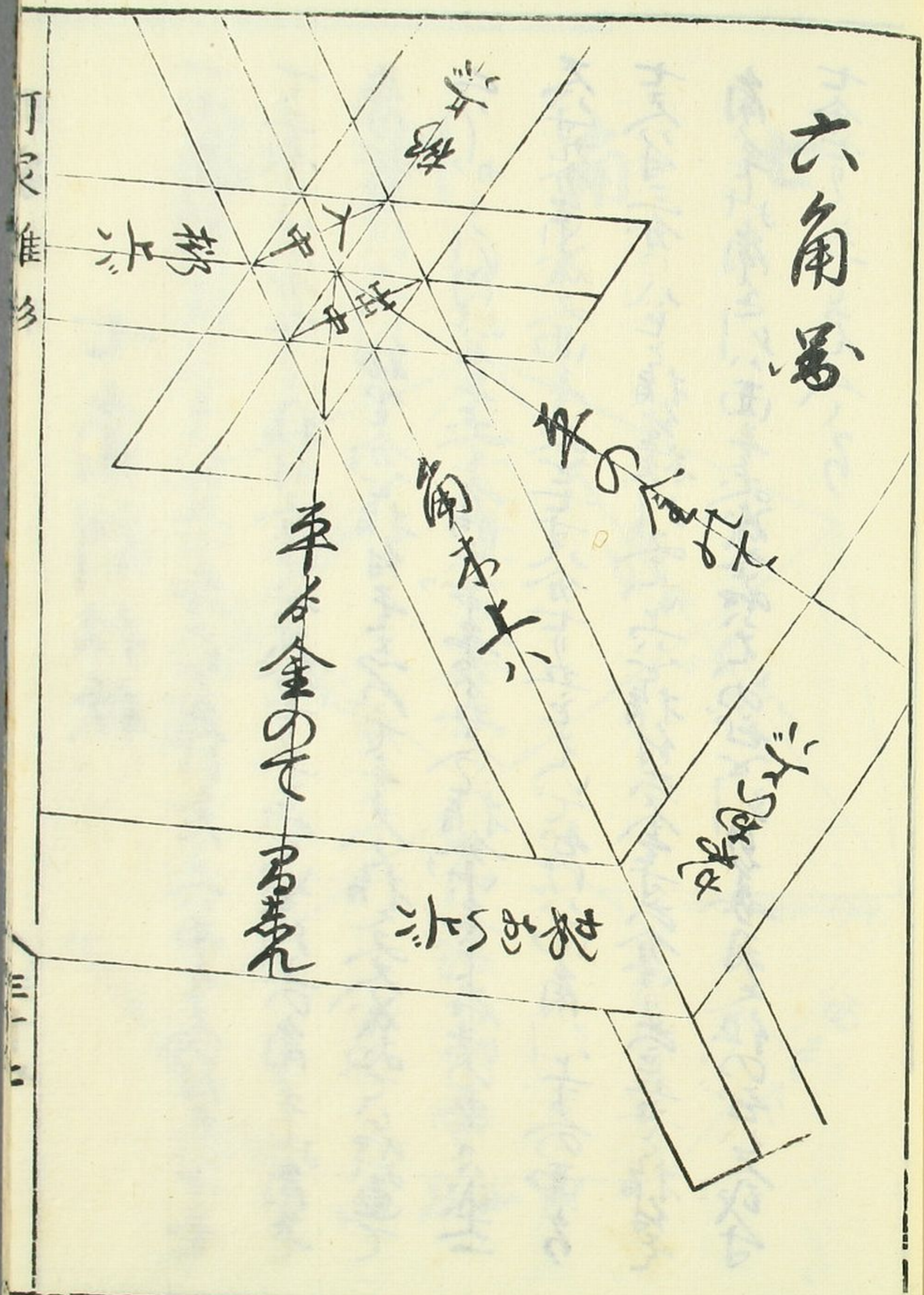




# 六角角金仕換

一六角割八六六仕位面を面六寸七分半を以て  
 金五寸五分四八と共と角を分ち申之  
 南本上六の寸と六寸  
 五と同安してその時の寸と懸之  
 南本下八の寸と五寸五分同安  
 寸の寸と二度割之  
 かねおの寸八寸五分五の寸と  
 寸七分半の寸  
 同六寸七分半の寸と立水同寸  
 角本上六の寸五分五分の寸と  
 角本下八の寸五分五分の寸と  
 角本上六の寸五分五分の寸と  
 角本下八の寸五分五分の寸と  
 角本上六の寸五分五分の寸と  
 角本下八の寸五分五分の寸と

# 六角角



丁尺准多

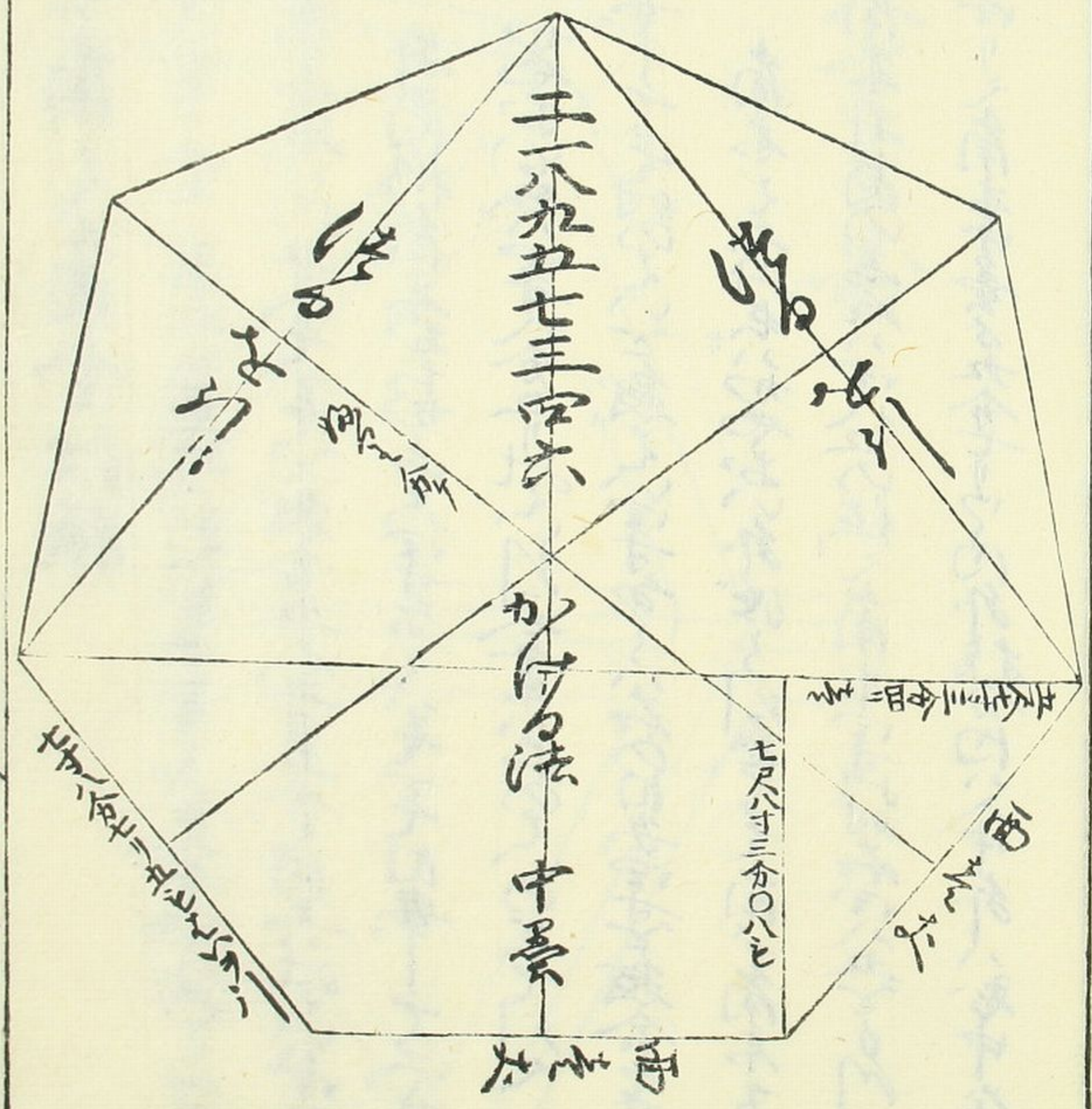
三十一



# 七角割仕換

一七角割の法ハ二五八五七三三六と懸ばた六面を人の肘の中巻  
 て二五寸八分九リと指付又下七寸余五リ五とを以上の角を下角まで  
 急がぬばはるの細量分を指付を志してきくと指又又成おては好過て  
 六リかゝり内なるまも有肘の中巻を五寸指分中巻を右法の趣ハ一  
 尺九分半又面を丈と七寸分七リ五とをいひ掛けハ面角の上の面より  
 七尺寸三分の八と指付横リ又二尺と指付を全寸五分四リを五と指付を  
 角を下角以上の面を丈成を六とをいひ掛けハ角の仕換の寸五分寸  
 七分七リ〇五と云ふべし

# 七角割





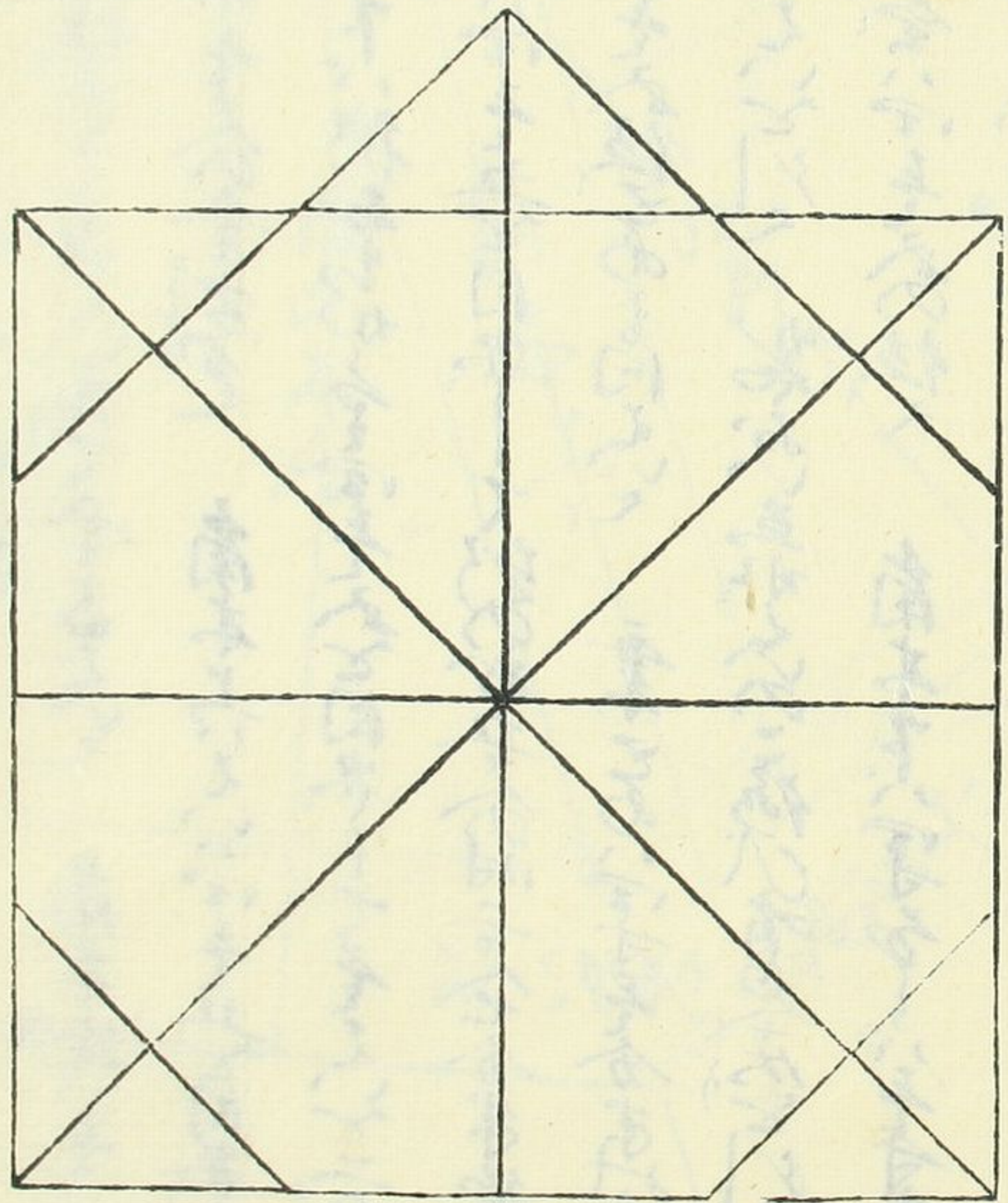




### 八南割南重仕換

一たと六八角八の中少を割と先角大をなすは  
 目少を寸面よりうへ付又日西より右の邊りにうへ置  
 けり付の中少と又び南重一や右の南はすみなるに  
 中すみり右南をなすは中すみりうへ付て角と  
 又角も是はうりにいへま少合と足合とありは  
 少ては右角と他りはうりにいへま少合と西ありは  
 他りてま人と同様に

### 八南割南



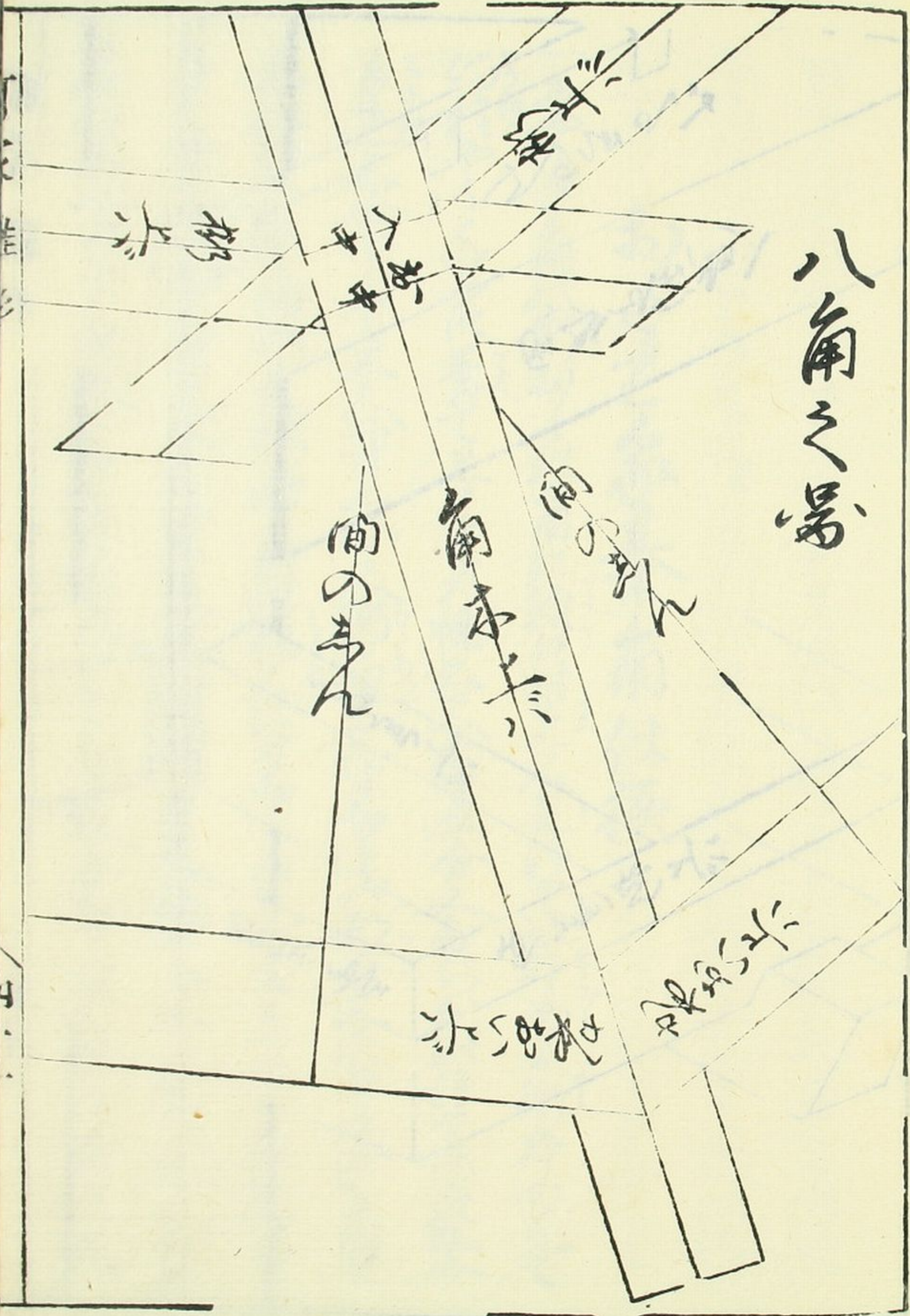
丁  
三  
三  
三



### 八角之南金仕換

八角面分面を仕換としてあるに於て金さざらに 南本延<sup>ひ</sup>を〇八乃  
 俵を八分と南本を五分の金さざらに 南本上<sup>ひ</sup>を五分を同敷して  
 時のことを懸へ 下<sup>ひ</sup>に概おちがるを五分を同敷してあるに二段割  
 知り 概おち延<sup>ひ</sup>を五分を同敷して概おち五分の時五分半延<sup>ひ</sup>  
 業<sup>ひ</sup>おち延<sup>ひ</sup>水字を五分を同敷して 業<sup>ひ</sup>おち五分を五分半延<sup>ひ</sup>  
 下<sup>ひ</sup>に概おち横の五分を同敷して 概おち延<sup>ひ</sup>水字の五分を同敷して  
 概おち南本中<sup>ひ</sup>を五分を同敷して 南本下<sup>ひ</sup>を五分を五分半延<sup>ひ</sup>  
 心中分内外(う)分内(入)中外(入)中(入)中(入)

### 八角之場









右のきん守七分守五分と二つ合て或九寸四分なりを何れも柳外此  
とありて此義来又新量又或寸九寸九分なりは二口合  
二寸九寸四分なりと強中極さへ六七二のかりもくはても其牧が  
くさへみも人よりおれは角大に較り時或ハ新がくさへ牧  
がくさへしと新量久さ其守其分は時新おき人守あふは守人  
二守二寸五分とかくきバ一寸二分なり是はかく角迄之を方合て是人  
七分なり右の新量と其守其分は角を七分九寸ハ越て守七分を  
割く是と回きあきて割くて又のりおして二つ小割ハ是守人右の割  
付守人九寸五分セリ也と人守五分ハ越て是人守七分セリ也と人守九  
寸五分とからきバ一寸八分なり是と是右の趣りに割付人時角此柱  
の南の内より一人身にふりて角外角の内より一人身に  
かへし二寸ハ越て或寸八分なり是とくさへは志ん角より是とくさへ  
付の量も右三人五分五分回き也とくさへは守七分守五分の割付を  
くさへ付人量もくさへはくさへはくさへの中量も是守八分九寸  
を五右の趣りくさへは志ん角よりは柳外西のくさへは志ん角  
の角小ても同り程也

右のきん守七分守五分と二つ合て或九寸四分なりを何れも柳外此  
とありて此義来又新量又或寸九寸九分なりは二口合  
二寸九寸四分なりと強中極さへ六七二のかりもくはても其牧が  
くさへみも人よりおれは角大に較り時或ハ新がくさへ牧  
がくさへしと新量久さ其守其分は時新おき人守あふは守人  
二守二寸五分とかくきバ一寸二分なり是はかく角迄之を方合て是人  
七分なり右の新量と其守其分は角を七分九寸ハ越て守七分を  
割く是と回きあきて割くて又のりおして二つ小割ハ是守人右の割  
付守人九寸五分セリ也と人守五分ハ越て是人守七分セリ也と人守九  
寸五分とからきバ一寸八分なり是と是右の趣りに割付人時角此柱  
の南の内より一人身にふりて角外角の内より一人身に  
かへし二寸ハ越て或寸八分なり是とくさへは志ん角より是とくさへ  
付の量も右三人五分五分回き也とくさへは守七分守五分の割付を  
くさへ付人量もくさへはくさへはくさへの中量も是守八分九寸  
を五右の趣りくさへは志ん角よりは柳外西のくさへは志ん角  
の角小ても同り程也







# 九角三角金仕換

一九角の法ハ西より西よりに於て八口の後

南本延ハ三〇六七

の位を三六分七リと南の金に定む

南本上ハ三〇六七を

目安として其時の寸とる

日弁角柄が三六分七を

三〇六七して二夜割え

北の柄の法に三六分七を

の法を分るる角延式三寸〇二リ

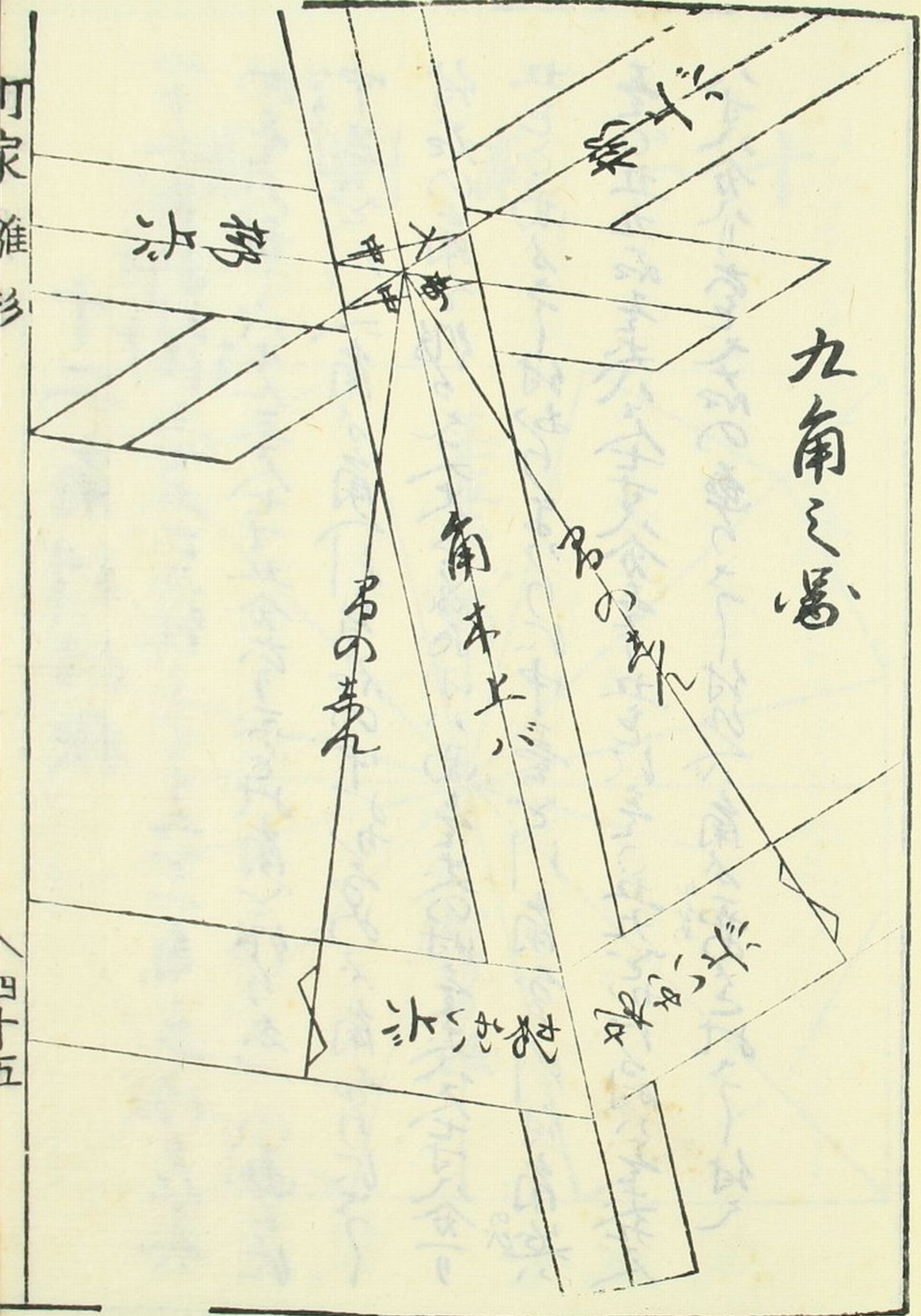
南本上ハ三六分七

といふ水ハ三六分七に寸とる

兼ハ

北の法を分るる角延式三寸〇二リ

角



町家新形

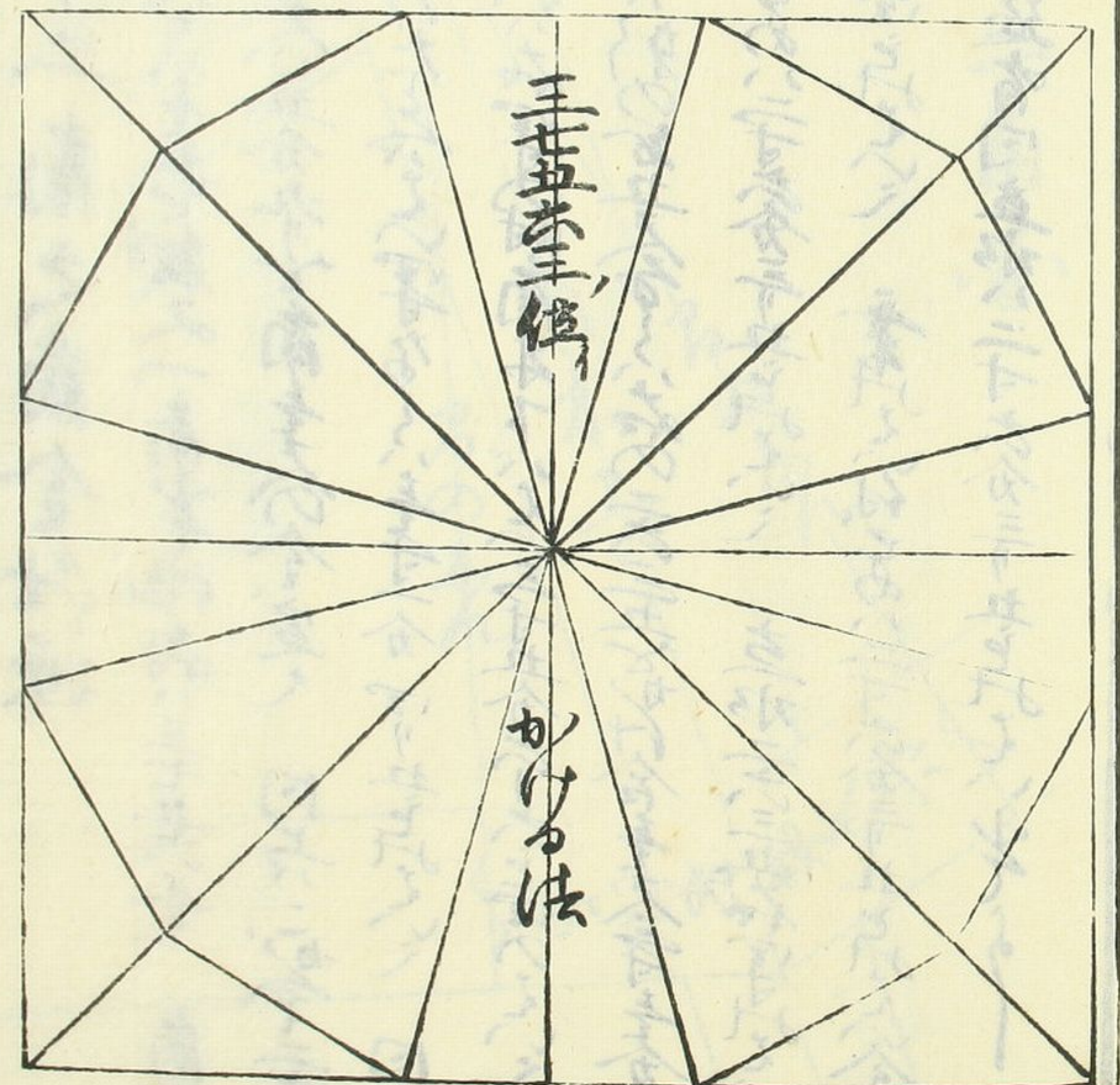
四十五



# 十二角割法換

十二角割法かくりやう三七五六三せういにして十二と一角をくたると六  
 西をさるくば先さき三寸七寸五分あり三と北角をくたるとくのくりく  
 中ちゆうをくたると二角を角かくのくたると中ちゆうをくたると南を角かくのくたると  
 付つきの角をくたると又大きぬおの面を丈の時を丈八寸八分り  
 北と西の方より付ありまうりに中ちゆうをくたると南を角かくのくたると  
 を〇五九を丈八寸八分り北と北を〇五九をかける時を丈八寸八分り  
 寸八分りを丈八寸の要りうく付ゆく角を要かをくたると付く

# 十二角割法









多開

四十七

浪華 十一堂廣思保教著

明和七寅九月

書林

日本橋通之用

須奈屋茂吉清板





